

講義③

「箕輪町誌のデジタル化と活用について」

講師：箕輪町図書館 副館長

平出 広志

1 箕輪町・箕輪町図書館の概要

箕輪町は南アルプスと中央アルプスに抱かれた長野県伊那谷の北部に位置する。昭和30年に三町村が合併して「箕輪町」が発足した。人口は約2万5千人。

箕輪町図書館は、昭和52年(1977年)に開館し、38年が経過した。平成24年(2012年)には絵本コーナーを増築し、延べ床面積628㎡、鉄骨2階建ての施設となっている。蔵書数は約7万冊。情報基地として、また読育の拠点として多くの住民に利用されている。

2 これからの図書館はどうあるべきか

いわゆる「無料貸本屋」にとどまっても未来はない。地域の情報拠点として、正確な知識・情報を収集・保存し提供する。これにより、住民の読書・学習、そして地域課題解決へのサポートをし、住民の生活や地域をより活性化させる、市民(ひと)・地域(まち)を支える図書館というのがこれからの図書館には求められている。

3 デジタルアーカイブ化の意義・気にかけるべきことなど

デジタルアーカイブ化の意義としては、埋もれかけた貴重地域資料を発掘し、地域の魅力をあらためて知ることができるということ、WEBで公開することにより世界からその情報にアクセスできるということ、資料が長期保存できるということなどが挙げられる。

箕輪町誌については、図書館にある開架用町誌は劣化し、閉架用町誌も残部がわずかで、絶版のため新規購入することもできないという現状にあったため、デジタル化し、広く皆さんに見てもらえるようにした。

デジタルアーカイブ化にあたっては、コストパフォーマンス、利用者の利便性向上、広く世界へ発信することなどを気にかけるべきである。まず、システムの導入に高額な費用をかけない、維持費(ランニングコスト)にも費用をかけないことである。また、利用者の利便性向上に配慮し、箕輪町誌のデジタル

アーカイブ化したものには、検索機能やメモ・ふせん機能等さまざまな機能を付した。また、WEBで公開することにより、広く世界へ発信し、小中学校等教育現場での活用や、障害者等の来館困難な方への利用拡大を図ることも重要である。

4 町誌をデジタルアーカイブ化したものは実際どのように使えるのか

町誌をデジタルアーカイブ化したものは、箕輪町ホームページの箕輪図書館のページから見るができる。利用者の利便性向上のために、さまざまな機能を付してある。キーワードで検索し、該当ページ一覧を表示させることのできる機能や、拡大・縮小や自動ページめくりの機能、メモや付箋などの情報の書き込みができる機能もあり、自分の箕輪町誌として使用することもできる。

町誌のほかに、中箕輪尋常高等小学校の駒ヶ岳遭難(『聖職の碑』の題材となった出来事)から100年の節目に作られた冊子もデジタルアーカイブ化し、町誌とともに、地元中学校で総合的な学習や登山の事前学習の際の教材として活用されている。

5 おわりに

今後の展開としては、貴重資料のアーカイブ化コレクションをより充実させ、データベースを構築、関連資料にもリンクを貼り、写真や動画等の資料を含めた「町総合デジタルアーカイブ化」へと考えている。

デジタルアーカイブ化は、特殊な情報や技術は問わず、誰にもできるものだ。興味があれば、ぜひ箕輪図書館まで問い合わせてみてほしい。



(講義中の平出講師)